

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 令和3年 3月 5日

事業所名 今川学園キンダーハイム

|         |  | チェック項目   | はい | いいえ  | 工夫している点  | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標  |
|---------|--|--|----|--|--|---|
| 環境・体制整備 | 1  | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である  | 12 | 1  | 無駄なものは片付けるなど、広く使えるようにしている。<br>子どもたちによって動き幅の違いに職員が対応できない場合がある。できるだけおもちゃなどバリエーションを出すようにしている。   | さくらやホールなど人数多数になる場面もあるが、クラス間で混雑しすぎないように調整がされている。<br>使用スペースを時間帯により分け密集しないようにしている。   |
|         | 2  | 職員の配置数は適切である   | 5  | 8  | 配置基準上は適切であるが、子どもの姿や状況や様子によって、人手が不足するため、加配等で適切にしている。  | クラスの状況により、応援に行く体制を充実させる。配置基準上は問題ないが、個別配慮や医療的なケアにより対応しきれない場面もあるため、職員体制の検討が必要。      |
|         | 3  | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている            | 14 | 1  | 保育室と遊戯室、ホールなどが分かれている。平屋なので段差はない。<br>玩具が見えないように配慮している。<br>写真などの視覚的に分かりやすくし、伝わりやすくしている。<br>クラスにより設備の配置などの構造を変化させている。                   | 引き続き、本人にわかりやすい環境の整備に努める。  |
|         | 4  | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている   | 12 | 3  | 毎日の清掃に加えて、週に2回は外部清掃も入っている。<br>コロナの事も以前に増して清潔に保つ事ができている。<br>毎日エタノール等で消毒し清潔を保っている。<br>コロナウイルス感染症予防やアレルギー対応で清掃や消毒を丁寧に実施している。            | 今年度は夏は暑く、冬は寒い状況だった。特に廊下の寒さや水の冷たさから手洗いを嫌がる子がいた。お湯ができるようにできないか要検討。                  |
| 業務改善    | 5  | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している  | 9  | 1  | 保育後の振り返りでその日になるべく振り返りをしている。<br>全体に関わるものがあれば朝礼、終礼などで共有している。<br>クラスで目標や振り返りを再度確認している。  | 業務改善に関する内容が伝わるように周知する。  |
|         | 6  | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている                              | 14 | 0  | クラスや全体で共有し、クラス外の職員も把握できるように努めている<br>行っている。<br>ZoomなどのICTの使用している。   | 新型コロナウイルスの関係で今は難しいが理由を説明してできる限りの改善は取り組んでいる。                                       |
|         | 7  | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 7  | 0  | 紙面掲示とホームページへの掲載で公開している。  | 公開方法やわかりやすい集計方法を検討。   |
|         | 8  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている   | 0  | 3  | 外部評価は実施していない。  | 第三者による外部評価については、今後検討。   |
|         | 9  | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している  | 15 | 0  | 延長保育をせず、計画的に月に2回は研修を実施している。<br>研修の内容などは年々、今必要な課題を挙げて取り組めるようになってきている。<br>キンダー内での研修に加え外部(今年度はZOOMが多かった)研修にも参加している。<br>定期購読書籍もあり回覧している。 | 実践研修は取り組んだ結果を発表する場になっているので、取り組みの最中の経過報告や試行錯誤などを皆で話し合い、クラスの垣根を超えて子ども達の事を話し合える場の構築。 |
| 10      | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | 15   | 0  | 家庭での生活上の難しさなどをしっかり聴き取り、施設での取り組みをどう活かしているのかが良いのか考えている。<br>職員間で一人ひとりの子どもの様子や、必要な支援について定期的に話し合い、作成している。 | 聴き取りの内容についての共有化、相談支援専門員との情報の共有化などの課題はある。   |   |
| 11      | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している               | 9  | 0  | 発達検査、言語検査などを実施している。<br>記入用紙をもとに不足している所は、聞き取りを行う。   | 標準的なアセスメントツールの種類を増やすことも検討していく。   |   |

|          | チェック項目   | はい | いいえ | 工夫している点  | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標   |
|----------|--|----|-----|--|--|
| 適切な支援の提供 | 12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 13 | 0   | 児童発達支援計画は領域別に項目がわかれている。<br>一つひとつの家庭にあった支援や家庭の様子を会議等で情報を共有している。<br>クラスで話をし合い計画を作成している。  | 発達支援の比重が大きく地域支援はまだまだ不十分な所はあるように思う。   |
|          | 13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている   | 14 | 0   | 公認心理士による支援内容の観察とフィードバックを実施している。<br>自分だけではなくクラス担任全員がしっかりと把握できるように、項目別にまとめた物を配布し常に意識できるようにしている。<br>クラス間で共有し、全員が把握して行えるようにしている  | 一定期間で支援計画を見直し、課題改善をおこなっている点については。  |
|          | 14 活動プログラムの立案をチームで行っている  | 12 | 0   | 月だより、日案作成などを実施しクラスで確認している。<br>どのような活動をすれば子どもたちが楽しんでくれるかを日々考えている。<br>より良くするために意見を出し合っているクラスで相談して行なっている<br>クラスによって違うのでは？ただ遊びの調整は全クラスで実施している。   | クラス単位で考えると、職員の経験年数などによってプログラムの検討内容が変わる。  |
|          | 15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している  | 11 | 0   | クラス毎の月だよりを全クラスで確認している。<br>タイムスケジュールはほぼ固定だが、内容はできる限り毎回違うようには考えている。<br>固定化されたプログラムも大切であると思う。同じ素材のおそびでも内容に変化をつけている。前月の予定を見ながら遊びの内容を考えている。<br>その時の子どもの様子を共有し、状況に応じた内容を話合う。<br>月毎のお便りを見比べあそびが固まらないように工夫している | 子ども達の発達・特徴は毎年全く違うので、そこを重点的に考えると自然に毎回違ったプログラムになっていく。職員間でコミュニケーション場面を少ない時間の中取れるように努力しているが、実際にその為の時間がない。                              |
|          | 16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している   | 10 | 0   | ADLへの取り組みと集団活動などを対象児童にあわせて取り組んでいる。<br>個別性を配慮した集団での取り組みや個別対応はしている。<br>子どもたちの状況に合わせて遊びを変化させている。  | 経験年数の少ない職員と一緒にいる場合は個別の取り組みがしにくくなる傾向がある。集団活動はクラス単位ではできているが、クラスを超えた集団活動はできていない。  |
|          | 17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している  | 14 | 0   | 時間がない場合もあるが役割分担については打ち合わせをしている。<br>出席確認、保育の内容等話している。<br>設定の狙いを事前に必ず共有し、日案や、口頭で遊びについて相談している。  | 職員間で話し合うためには職員同士の信頼関係の構築が重要だと感じる。役割分担を伝える事でその事ばかりが気になり臨機応変に対応できなくなる場合もあるので、状況に合わせた打ち合わせが必要。どのような流れでいかに簡単に話をしているがもう少し具体的に話をする必要もある。 |
|          | 18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している   | 10 | 2   | 保育日誌の記入とおたより帳の記入を通じてふりかえっている。<br>気づいた点は小さなことでも話す。<br>気づいたこと感じたことはその日に共有するようにしている。<br>短時間でも子どもの良い変化、対応について悩んでいることなど共有している。  | その日中に必ずにはなっていない。他にすべき仕事が増えると難しさはある。改善すべき点の話はあまりできていないのでもっと話し合いをすべきたと思う。  |
|          | 19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている  | 12 | 0   | 保育日誌、おたより帳も記入を通じて検証している。<br>常に子どもの変化を付箋に記録し、その付箋をノートにまとめるようにしている。<br>難しさがある時は、ノートに日々記載をしようすれば上手くいくのか考えている。改善が難しい時は、相談などしている。<br>お便り帳にて子どもの様子を記入している。   | たまに記載を忘れてしまう、それが気を付けないといけない。<br>記録時間の確保に苦慮している。  |
|          | 20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している   | 14 | 0   | モニタリングは保護者さんと懇談形式で実施するため事前にクラス会議などを実施している。   | 引き続き、モニタリングを丁寧に行い、必要に応じて計画を見直す。  |

|                  | チェック項目   | はい  | いいえ | 工夫している点   | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標   |   |
|------------------|--|---|-----|---|--|---|
| 関係機関<br>や保護者との連携 | 21   | 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している                            | 12  | 0   | 短時間でも参加できるようにしている。様々な知識を持っている方が参加している。児童発達支援管理責任者が参加している。子どもの様子を伝えた確かな会議で報告を行ってもらっている。   | 相談支援事業所からの要請に応じて適切な者が参加できるように努める。             |
|                  | 22   | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている   | 10  | 0   | 対象の区の子育て支援室との連携など実施している。電話での情報共有や会議に出席している。  | 引き続き、頻度を上げて連絡をとり、円滑な支援を実施できるように努める。           |
|                  | 23   | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | 7   | 1   | 対象児がいない。   | 対象児童がいる場合は連携して支援を実施する。                        |
|                  | 24   | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている              | 6   | 1   | 対象児がいない。   | 対象児童がいる場合は連携して支援を実施する。                        |
|                  | 25   | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている                 | 13  | 0   | 引き継ぎシートの作成を実施している保育士へ訪問して様子を見ている保育所訪問は引継ぎ資料などで行っている。情報共有を行なっている。   | 移行先で支援内容まで共有しているかは、分からない。情報交換の頻度等はもう少し増えればよい。 |
|                  | 26   | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている                             | 12  | 0   | 保育所等訪問支援事業と連携して実施している。引継ぎ資料を作成している引継ぎ資料や見学などで行っている。  | 就学先と支援内容まで共有しているかは分からない。                      |
|                  | 27   | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている                     | 7   | 0   | 園長が自立支援協議会のこども部会に参加している。他の自治体の児童発達支援センターでのコロナウイルス感染症予防対応について、共有した。   | 今年度は特に研修などの報告時間がすくなかった                        |
|                  | 28   | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある                                      | 8   | 6   | 感染症対策のため今年度は実施されなかった。  | 新型コロナ感染症予防の観点から行事が中止となってしまった。                 |
|                  | 29   | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している                                       | 4   | 1   | できるだけ参加できるように勤務調整をしている。  | コロナで会議が中止になることも多かった。                          |
|                  | 30   | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている                                | 13  | 0   | お便り帳を用いて保護者と日々の様子を伝達し合う事で子どもの小さな変化などを共有できる。子どもの変化を発見した場合や支援の取り組み方など、保護者に伝えた方が良い事柄はクラスで共有し、送迎時などにお伝えするようにしている。保護者に会う機会があれば、1つでもその日起きた子どものエピソードを伝え、情報を共有する様にしている。園での様子を伝えて、家での様子も聞き、一緒に考えていくようにしている。 | 十分な話し合いの時間の確保が難しい。                            |
| 31               | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている   | 7   | 1   | 通園1年目の方を対象としたお話し会1、2年目以降を対象としたお話し会2を年間各5~6回実施している。お話し会1・お話し会2の中で、見通しを持つことや色々なかわり方を知ることができている。 | お話し会等で勉強できる機会を作っている。ただ、参加していない保護者の方もいるので、参加率を上げるためにどうしていくかが課題。   |   |
| 32               | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている   | 9   | 1   | 見学時、入園説明会時、契約時と回数を増やして説明している。   | どういった風に説明しているかなどを、全職員が知っているわけではないので報告が必要。  |   |
| 33               | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | 14  | 0   | 家庭訪問はコロナ禍の中縮小したが、懇談は十分な距離をとって実施できた。細かく丁寧に説明する時間は取るように心がけている。                                  | 引き続き、丁寧に説明して伝えていく。   |   |

|            |    | チェック項目   | はい | いいえ | 工夫している点  | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標   |
|------------|----|--|----|-----|--|--|
| 保護者への説明責任等 | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている                              | 14 | 0   | 定期懇談だけでなく、臨時でも懇談を実施している。状況に応じて、電話や対面や書面でのやりとりをしている。<br>お便り帳等でのやり取りの中での困り事などあれば電話等でしっかり聞き、一緒に工夫すべき、家でできる支援を考え伝えている。保護者の方の表情などを見ながら、自主的に相談することが難しそうな場合は声をかけるようにしている。保護者の思いをまずは受け止めて共感に努めている。 | 引き続き、適切に相談に応じ必要な助言と支援を実施する。  |
|            | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している                               | 11 | 0   | 保護者会の活動は今年度はなかなか難しかったが、サポートはしている。<br>今年度はコロナのため、集まり交流することが難しかったが、代表の方と連絡を取りzoomでの研修も行われていた。  | 今年はコロナの影響で活動が積極的にできていない。保護者会の担当の方が頑張っておられた。できる限りフォローや調整の協力はしていく。       |
|            | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | 11 | 0   | その都度、懇談は実施している。<br>こういう意見があったという事に対し、皆で話し合い、より良い取り組みの為にどうすれば良いか考えている。<br>電話、面談など保護者とのやりとりで対応している。  | 引き続き、丁寧に相談を受付けていく。   |
|            | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している                           | 14 | 0   | 月毎にキンダーだより、クラスだより、献立を配布している。年に2回、冊子「どろんこ」を発行している。<br>クラス便りにおいては、各クラスその月の特徴・発見など詳しく記載している。  | 引き続き、情報伝達に努める。   |
|            | 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している  | 15 | 0   | シュレッダー処理や職員、実習生に対する守秘義務を説明している。<br>個人情報が記載されている書類などは処分はすぐにシュレッダーをする。   | 引き続き、十分な注意をして取り扱う。   |
|            | 39 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている                                       | 14 | 0   | 細かく情報説明するため、その人にとって分かり易い方法(見る・書く等)を常に考えている。<br>子どもや保護者によって、話すスピードや声のトーンなどを工夫して関わるようにしている。<br>視覚提示やわかりやすい簡単な言葉を使用し、簡潔に話している。聞き取りが苦手な方には、文字で伝えるようにしている。                                      | 引き続き、円滑な意思疎通に向けて取り組む。  |
|            | 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている   | 4  | 3   | 新型コロナ感染症予防の観点から、行事については開放しないこととなった。地域と一緒に夏祭りを行っていたが、コロナの関係で中止となった。   | 状況がよくなれば取り組みを実施する。   |
|            | 41 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している        | 14 | 1   | 職員研修でも実際の作業内容の確認をおこなった。<br>月に一回は避難訓練を行なっている。<br>緊急時の連絡網を作成している。<br>行政から提供されたYouTubeによる研修で学んだ。  | 本当に災害にあったことがない為、本番時に落ち着いて対応できるかが不安。                                    |
|            | 42 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている   | 15 | 0   | 月に一度は避難訓練を実施している   | 避難リュックの整理などを全クラス共通ですべき。職員が配置基準数いる想定で行っているが、職員数が不足している場合、どのように避難するかが課題。 |
|            | 43 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している  | 15 | 0   | 入園前見学時に確認し、入園決定後は看護師を交えての医療懇談を実施している。<br>看護師・事務所で把握した上で全職員で状況を把握している。  | 医療的に配慮の必要ある子どもには、看護師を交えて懇談する機会を十分に設ける。                                 |

|         |    | チェック項目   | はい | いいえ | 工夫している点  | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標   |
|---------|----|--|----|-----|--|--|
| 非常時等の対応 | 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている                                       | 14 | 0   | 指示書にもとづき、除去食を提供し、アレルギーの誤食が起こらないように片付けや清掃を徹底している。除去食をクラスで毎日共有して注意している。給食提供については、栄養士を中心に厨房、クラス担任がチェックし、事故につながらないようにしている。 | アレルギーのある子どもがクラスに居る場合はしっかり把握できているが、それ以外の職員はどの食材が駄目であるというは分かっていない                                  |
|         | 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している  | 8  | 1   | 朝礼、終礼で全体化は行っている。終礼で全体化し共有している。会議で全体報告を行い、以後気をつけるよう心がけている   | ヒヤリハット報告書の有効活用については、今後の課題。   |
|         | 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている   | 15 | 0   | 研修の一環として実施している。自分の行動に改善点があるのかを職員同士で指摘している。全職員が意識して徹底している。それぞれの階層で研修を実施している。  | 引き続き、研修を含めて虐待防止に取り組む。  |
|         | 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | 14 | 0   | 身体拘束は原則おこなわないが、あらかじめ取り決めた場合のみ実施する。万が一イレギュラーなことが起こった場合は、児童発達支援管理責任者、管理者、保護者の意思確認の上、本人の不利益にならないように決定する。                  | クラスでも話し合いをしているが、万一疑わしい場面があった場合もあり、そういう時にしっかり「今は必要ない」「行動制限しているように見える」等、第三者が意見を言えるようにしていかなければいけない。 |

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。